

**兵庫医科大学病院**〒663-8501 兵庫県西宮市武庫川町1番1号
TEL.0798-45-6111(大代表)
<http://www.hosp.hyo-med.ac.jp>

新年のご挨拶「大学病院のトップブランドへ向けて」

病院長 太 城 力 良



新年明けましておめでとうございます。健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年 11 月には兵庫医科大学開学 40 周年式典を挙行了しました。そして周年記念事業の一つである急性医療総合センターの建物は昨年 12 月に完成し本年 4 月にオープン予定です。同センターは災害拠点病院としての役割を果たし、地震や台風などの災害時にも効率よく機能する救命救急センター、それに隣接する IVR（血管内手術）センター、ハイブリッド手術室やロボット手術装置「ダヴィンチ」を装備する手術センター、アイセンター、集中治療センター、周産期センターなどの施設を包括し、高度な医療と密接な地域連携を展開します。

学校法人兵庫医科大学は、ここ数年の間に兵庫医療大学の開設、ささやま医療センターのリニューアルなどの整備拡充を行ってきましたが、本年度から西宮キャンパスの本格的整備がスタートし、大学本体となる新教育研究棟の基本設計も始まります。このため、現在の精神科病棟の取り壊しや、病棟・外来の移設なども予定されており、工事中は患者さんをはじめ皆様にご迷惑をおかけしますがお許し下さい。

これらの整備事業は学校法人兵庫医科大学が医系大学のトップブランドになるための手段です。最終的には、設備や建物ではなく、本学教職員や学生の自覚・意欲と知恵に基づく行動力が評価を決定する一番の要因です。すでに昨年の医師国家試験の合格率は国試浪人を含めても全国一でしたし、研究面でも全国でトップレベルの公的資金を獲得しています。また、週刊ダイヤモンド誌の頼れる病院ランキングでも兵庫県一位の評価を例年得ています。われわれ病院教職員は新年を機に心を新たに、さらなる発展を遂げ、そして患者さんや紹介元施設の皆さまに満足して頂ける医療を展開すべく努力することを誓いたいと思います。

本年も、皆様方にとりまして良き年であることを願っております。また、今後も病院運営にご理解・ご協力のほどをお願い申し上げます。

急性医療総合センター内：救命救急センターのご紹介



救命救急センター センター長 小谷 穰 治

当院の救命救急センターは、16人の救急専従医と17～20人のレジデント・研修医、6人の非常勤医師から構成されています。臨床・教育・研究を3本柱として地域の救急医療に貢献できるよう取り組んでいます。今春より急性医療総合センターの1階・2階に救命救急センターを移転し、より高度な救急医療を提供するとともに1人でも多くの重症患者を受け入れ、収容できるようスタッフ一同、万全の準備をしています。

急性医療総合センターの1階には初療室・血管造影室・除染室・熱傷治療室・救命救急センター専用の手術室を設け、搬入直後より迅速な救急処置・手術が行えるようになります。初療室には最大5件の搬入患者の対応ができるようになり、大規模災害やCBRNE（生物・化学・核・放射線による被害）患者にも対応できるような最新の環境を整備します。また専用の熱傷治療室や手術室を設けることで、いままで使用状況（処置中・手術中）により受け入れが困難であった患者搬送の依頼について、さらに多くの患者数を収容できるようになります。2階はICU20床（CCU8床含む）・病棟24床へ増床となり、より高度な集中治療管理を目指しています。

当センターの特徴は、独立したICUと一般病床を持ち、センター内で可能な処置・治療を行うとともに、グレーゾーン（病態が複雑に合併している患者さん）や当科だけでは対処困難な場合に各科と協力することで大学病院の利点を効率よくフル活用しながら治療を行うところにあります。平成24年度の当センター入院患者の内訳は外因性疾患49%、内因性疾患51%となっています。外因性疾患では交通事故・労働災害による多発外傷を積極的に受け入れ、頭部外傷・胸腹部外傷・四肢骨盤外傷などの手術は24時間体制で対応しています。また、平成24年より新たに形成外科医が専従医として加わり、当院形成外科の協力の下、再接着を含め24時間の四肢切断に対応しており、最近では阪神間だけでなく神戸市内・県内外の患者を受け入れています。救出に時間のかかる場合や災害現場にはドクターカーによる医師派遣をしておりPREVENTABLE DEATH「防ぎ得る死」の撲滅に努めています。また先端医療として、重症広範囲熱傷患者に対する自家培養皮膚や人工真皮による植皮術において良好な成績をあげており、阪神間・兵庫県内の重症熱傷の中心的医療機関となることを目指しています。内因性疾患では、CCUと敷居のない同じフロアで診療できるようになることで、虚血性心疾患・急性循環器疾患に対してより迅速に対応できます。特に心室細動による心肺機能停止患者に対しては、初療室で迅速にPCPS（経皮的人工心肺）を導入し、必要に応じCCUと協力し冠動脈形成術、脳低体温療法を組み合わせ、社会復帰できるよう高度集中治療を実践します。また他院からのハイリスクや合併症を伴う手術症例も積極的に受け入れています。昨今、社会問題として取り上げられている周産期救急医療に対しては急性医療総合センター内に産婦人科が設けられ、小児科をはじめ各科と協力して県内広域にとどまらず県外からの受け入れも可能となります。その他、重症急性膵炎に対する動脈注入療法や血液浄化療法、劇症肝炎に対する血漿交換療法、食道静脈瘤破裂や出血性胃潰瘍に対する内視鏡的止血術、前述のような重症心不全や呼吸不全に対する補助循環装置や人工心肺を用いた高度集中治療を実践することで、今後は近隣医療機関だけでなく県内外からの転院依頼も積極的に受け入れる予定です。

当院は災害拠点病院でありDMAT（災害医療チーム）を2チーム擁し、地震・航空機事故などの大規模災害や核・生物兵器・化学兵器によるNBCテロに備え、県内外の災害訓練に参加し修練しています。東日本大震災では発生直後にDMATを派遣し、日本で初めて行われた航空機による被災負傷者の広域航空搬送に従事しました。

教育面では、医学生教育はもとより医師・看護師・メディカルスタッフ・救命士等に対す

る BLS・ICLS・ISLS（脳卒中初期診療トレーニング）の開催や JATEC・ITLS・MCLS（集団災害）への参加をしており実践に応用できる能力を養えるように講義・指導をしています。

現在、患者の受け入れは一度に 2 件の重症患者を受け入れる体制となっていますが、前述のとおり今春からは最大 4 件の初療収容が可能となる予定です。ここ 2～3 年外科専門医、整形外科専門医、小児科専門医の各スペシャリストが加わり、平成 24 年度は新たに外科医と形成外科医とレジデントが増員となりました。さらに今春には 1 名の病院助手と 2 名のレジデントが増員となり増設される初療室や ICU に対応できるよう準備をすすめております。

当センターはチーム医療をモットーとしており、毎朝の症例検討会はオープンカンファレンスであり、当センターの医師だけでなく看護師・法医学の医師も参加しています。また理学療法士・言語療法士・呼吸療法士やケースワーカーを交えたりハビリカンファレンスも行い、全身状態や環境因子も考慮した救急医療に取り組んでおり、「開かれた 3 次救命救急センター」を目指しております。開業医の先生方や近隣病院の先生方に時間を問わず（日中～終日あるいは夜間のみでも可能です）救急医療に参加していただくことができます。カンファレンスのみの参加も可能ですので、随時ご連絡いただければ対応いたします。

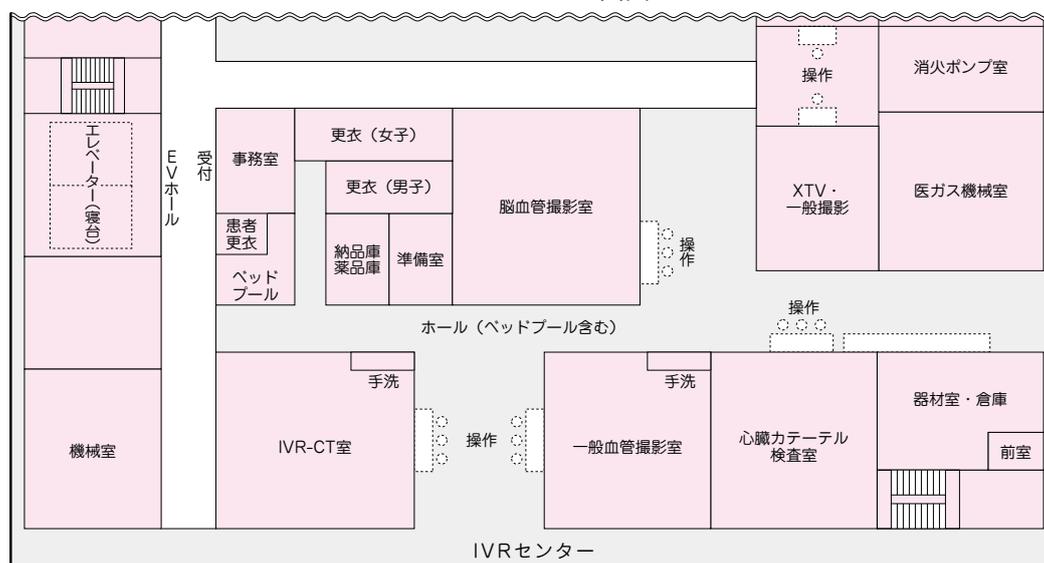
急性医療総合センター内:IVRセンター(血管造影室)について

放射線医療センター長／IVR診療部部长 廣 田 省 三

新しく開設される急性医療総合センター 1 階に救命救急センターと隣接する形で、IVRセンター（血管造影室）がリニューアルし、1 号館から移設することとなります。

IVR には血管内治療と呼ばれる血管系 IVR とドレナージ、生検、局所治療などの非血管系 IVR の 2 つがあります。当センターでは、冠動脈の PTCA などの心臓・血管領域、脳動脈瘤塞栓術などの脳神経領域と、化学塞栓療法、腹部動脈瘤治療、PTA（血管形成術）、生検などの胸部・腹部、四肢領域などのインターベンションを年間約 3000 件行っています。移設にあたって、1) IVR 適応の救急患者の速やかな移動、2) 更新された新しい血管撮影装置（2 台）による機能向上、3) 医師・メディカルスタッフが働きやすい動線と機能アップを意図して設計しました。約 800 平米のフロアに 4 台の血管撮影・IVR 装置（心臓専用血管撮影、脳神経専用バイプレーン血管撮影装置 [更新]、腹部専用 IVR-CT 装置、多目的血管撮影装置 [更新]）があり、兵庫県で最高レベルの機能をもつセンターであります。急性医療総合センター内に移設されることで、患者移送の動線が改善され迅速な対応ができるようになり、高い能力をもった地域の IVR センターとして活動ができると考えています。

＜IVRセンター 図面＞



急性医療総合センター 1階

兵庫医科大学開学40周年記念式典・講演会・祝賀会 開催



平成24年11月22日(木:創立記念日)午後1時45分より、リーガロイヤルホテル(大阪)において、兵庫医科大学開学40周年記念式典・講演会・祝賀会が行われました。

昭和47年に開学した兵庫医科大学が、平成24年度に開学40周年の年を迎え、これを記念して行われたものです。

当日は、病院関係の皆さまを含め約400名のかたがたにご列席いただきました。

講演会では、「兵庫医科大学40周年記念によせて“免疫学研究を通して人をつなぐ”」を演題に元大阪大学総長の岸本忠三先生より、「日本のこれから」を演題にお茶の水女子大学名誉教授の藤原正彦先生よりご講演をいただきました。

地域の医療機関の皆さまには、開学40周年を機に、本学病院へのなご厚情を賜りたく存じますので、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

第12回 地域医療懇談会 開催報告

平成24年9月1日(土)午後4時から、都ホテルニューアルカニック(尼崎市)にて、医師会及び地域の医療機関の先生方との連携の推進を目的として「第12回地域医療懇談会」を開催しました。当日は医師会及び地域の医療機関の先生方をはじめ看護師、ソーシャルワーカーの皆さん等、院内外で123名の参加がありました。

今回は、「急増する呼吸器悪性腫瘍(肺癌/中皮腫)の治療戦略」～兵庫医科大学病院肺癌がんセンターボード～をテーマに、本学病院より内科呼吸器・RCU科の中野主任教授、呼吸器外科の長谷川主任教授、放射線科の上紺屋教授、がんセンターの福岡准教授がそれぞれの診療分野に関する講演を行いました。講演会終了後の懇親会にも多数ご出席いただき、盛会のうちに終了しました。今後ともご出席の程よろしくお願ひいたします。



お知らせ

兵庫医科大学病院では、平成25年2月25日(月)より「電子カルテ」を導入します。

電子カルテの導入により患者さんによりよい医療を提供できるよう努めますので、今後ともよろしくお願ひ致します。